



## 将来構想委員会

将来構想委員会委員長 佐浦隆一

理事長直轄の将来構想委員会は、各種委員会の業務分担に関する内規に基づき、設置されました。

委員会は、担当理事である私を含めた12名で構成されています。高齢者目前の私以外は40～50代ですが、未来を見据えた構想を練り上げるため、もっと若い世代の意見も積極的に取り入れたいと考えています。

委員会の目的は、日本リハビリテーション医学会（以下、医学会）、そして日本のリハビリテーション医学・医療の将来像を構想することです。

具体的には、医学会のミッション（M）・ビジョン（V）・バリュー（V）を策定し、将来構想の土台となる、ミッションを踏まえたグランドデザインを描き、ビジョンを反映した将来構想を練り上げます。さらに、医学会会員全員が共有できる価値観や行動指針（バリュー）を提示します。

しかし、医学会を取り巻く状況は決して楽観視できるものではありません。

医学会内では、教育、臨床、研究など、課題が山積しています。加えて、2019年の新型コロナウイルス感染症（COVID-19）パンデミックの影響で、医学会の運営は財政的に厳しい状況に陥りました。

理事会は、組織の活性化を図るため、代議員の定年制と役員任期制を導入しました。将来構想委員会は、理事長の諮問を受け、適切な代議員の定年年齢を理事会に答申しました。

国は2040年に向けての地域医療構想の試案を示しています。超少子・超高齢・多死社会において、健康寿命の延伸は喫緊の課題です。リハビリテーション医学・医療は、そのための重要な役割を担っています。

将来構想委員会は、次世代に明るい将来を手渡すことができるように、会員全員に共感してもらえるM・V・Vを策定し、理事会にさまざまな提案をしたいと考えています。

そのためにも、将来構想委員会への、若い会員からの提言や支援を心から期待しています。

## 社会保険委員会

社会保険委員会委員長 緒方直史

社会保険委員会では、2年ごとに改定される診療報酬改定に対する意見の聴取および集約を主な業務として、月1回程度委員会を開催しております。また、対外的には診療報酬改定に関する内科系学会社会保険連合（内保連）・外科系学会社会保険連合（外保連）への参加、連携・意見交換なども行っており、内保連リハビリテーション関連委員会における関連学会との意見調整、全国リハビリテーション医療関連団体協議会など関連協議会への参加と連携・意見交換も行っています。令和6年度の診療報酬改定は、6年に一度の医療・介護・障害福祉サービスのトリプル改定となりました。日本リハビリテーション医学会からは、内保連・外保連を通じて5項目提案し、また全国リハビリテーション医療関連団体協議会を通じて提案した項目も3項目ありましたが、残念ながらいずれも採択されませんでした。ただ、リハビリテーション医療関連では大きな改定もあり、これを受けて、令和6年度診

療報酬改定に関するアンケート調査を行い、会員の先生方のご意見をまとめて医学会誌に掲載いたしました。

今年はさらに、リハビリテーション診療報酬審査委員経験者へのヒアリングおよび意見交換を行い、リハビリテーション診療における診療報酬の地域差を明らかにすることを目指して参ります。すでに令和8年度の診療報酬改定に向けて活動を開始しており、内保連リハビリテーション関連委員会における関連学会との意見調整が始まり、共同提案のうちどれを受けるか検討することになります。また、医学会からの提案についてもいくつか候補を挙げて、絞り込む作業が始まっています。今後、内保連などでのヒアリングを行い、提案項目をまとめていくこととなります。よりよい診療報酬改定につなげられるよう委員会活動を鋭意行ってまいりますので、今後も皆様方のご理解、ご支援のほどお願い申し上げます。